

港区立六本木中学校 授業改善に向けた視点

平成28年度

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○少人数指導の更なる充実 ☆定期考査前1週間の朝学習 ▲基礎学力の定着と学力向上 ○行事の精選による授業時数確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学力調査の結果分析を確実に実施することと弱点克服のための指導の工夫 ▲家庭学習の習慣化 ▲ICTの効果的な活用 ○各種検定受検の推進 ○授業規律の徹底 ○授業時数の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価・評定に関する校内規準の共通理解 ○評価方法について、生徒・保護者への分かりやすい説明 ○生徒による授業評価実施 ☆通知表のフォーム改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○アカデミーの研究主題「自ら考え、表現し、伝えあう子供の育成」を踏まえた各教科・道徳・特別活動の指導の充実 ☆校務支援システムの理解徹底へ向けた研修の充実 ☆ハイパーQ Uの効果的な活用を考える研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評議員会の有効活用 ○家庭や地域への積極的な情報提供及び相互理解 ○外部評価の活用
具 体 的 な 取 組				
<ul style="list-style-type: none"> ・英語・数学では、習熟度を考慮した少人数授業を実施し、個に応じた指導を効果的に推進する。 ・定期考査前1週間を、全校朝学習期間とし、学習への前向きな取り組みを促進する。 ・必要に応じて補習を行い、理解の定着を図る。 ・月ごとに、授業実施時間数を集計し、特別時間割や土曜授業の時間割等で時数の過不足を調整する。 ・行事の事前練習は、予定時数にそって適切に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査で標準点を下回る項目について分析し、指導の改善を図る。 ・宿題、課題を計画的に出し、点検確認指導をしながら家庭学習の充実を図る。 ・ICT機器、図書室・コンピュータ室の授業利用を推進する。 ・英語・漢字・数学検定を実施し、学習への意欲を高める。 ・チャイム始業を徹底し、授業時間を確保すると共に、前向きに取り組む姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価・評定に関する校内規準の共通理解を図り、学校として統一した評価作成の流れを作る。 ・生徒や保護者に対して、評価に関する説明を行い、理解の徹底を図る。 ・生徒による授業評価を年2回実施し、各教科の授業改善に役立てる。 ・通知表のフォームを変更し、生徒や保護者が、よりわかりやすい形式に改善した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・小学校との交流から、各年齢での子供の発達の様子を理解し、その上で中学校の学習指導や生活指導を進めていく体制を作る。 ・校務支援システムに関する研修を複数回実施し、全教員が内容を理解して、有効に活用できるようにする。 ・ハイパーQ Uを効果的に活用することで、より深い生徒理解や授業改善に役立てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観週間、学校評議員会を定期的に開催し、学校の教育活動への理解を進める。 ・PTAと協力して、職場体験活動を行う。 ・ホームページの内容を更新し、できるだけ新鮮な学校の情報を発信する。 ・行事や緊急時の連絡に、携帯メール配信を活用する。 ・保護者、学校評議員の学校評価の結果を受け、よりよい学校づくりを行っていく。
成 果 と 課 題				
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導の充実で、個へのより細かい対応が進み、基礎基本が定着しつつある。 ・授業実施時間数を月ごとに集計することで、教科や学級による時間数の片寄りを逐次調整することができた。 ・行事準備の予定時数が守られ、授業時数の確保が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員一人一人が、基礎基本の徹底を常に考え、授業を工夫改善する努力をしている。 ・家庭学習の定着に向け、課題、宿題の点検を繰り返して行く必要がある。 ・各教科で落ち着いた雰囲気のように全体で協力していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価について意見交換をしながら周知徹底を図ってきたことで、全教員の共通理解が深まっている。 ・通知表が、生徒自らの振り返りと、次学期への課題確認や励みとして受けとめられている。 ・生徒による授業評価が、各教員の授業改善に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミー内での教員交流が深まり、互いに理解し協力できる体制が整いつつある。 ・授業や部活動等、児童・生徒間の交流をさらに推進し、幼小中一貫教育を充実させていく。 ・校務支援システムが円滑に機能していくように、今後も問題点等への迅速な対応を行っていく体制を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域から、学校への理解が深まってきている。 ・職場体験に向け、PTAの協力のもと各事業所が受け入れ体制を整えている。 ・ホームページや授業公開、諸行事、学校説明会等で、今後も学校理解のための積極的な情報発信を継続する。 ・外部評価では、概ね良好な結果が出ている。今後も開かれた学校を目指していく。